

2024年度チャレンジ講座(第5回)を実施しました

7月17日(水曜日)、第5回チャレンジ講座を実施しました。今回は、経済学部 河野憲嗣先生から「通貨のイノベーションによる地域活性化を考える：地域通貨の課題と可能性」というテーマで講義がありました。



講義はまずお金を考えることから始まりました。お金の変遷、昔は貝殻などの自然素材であったのが、現在は電子マネーやデジタル通貨が普及していること、お金がなぜ必要か、お金の機能などについて話がありました。お話の中では「日本は現金を使うことが多い」「景気が良いとは？」など、高校生の探求の材料になるような言葉もたくさん出ていました。

貨幣と地域通貨の違い	
貨幣(紙幣、硬貨)	地域通貨
日銀、政府しか発行できない	1. 条件がそろえば誰でも発行OK
どこでも使える (価値の尺度になる)	2. 限られた地域でしか使えない
いつまでも使える (価値を保存する)	3. 一定の期間しか使えない
価値そのものである (法定通貨である)	4. 価値を「代行」している (価値そのものではない)
貨幣はある意味、「便利すぎる」のかもしれない	

今回の講義題目の本題では、貨幣と地域通貨の違いや地域通貨の良さについて話がありました。地域通貨の良さでは、①自由に発行できること②外に出ていけないこと→“お金の地産地消！？”③放置されないこと→お金が循環する→“景気が良くなる！？”，というように生徒の興味を引く話をされていました。また、やりとりされていないお金「タンス預金」が50兆円あり、景気に貢献していないお金がたくさんあるという、生徒の探求心をくすぐる面白いお話もありました。

講義の最後には、河野先生ご自身の経験から「社会の課題や疑問について考えること」の大切さを話していただきました。高校生にとって非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今回の講義には26校410名の高校生が参加しました。感想の一部を紹介します。

- とてもわかりやすい授業で、興味深い内容ばかりだったので、経済学部にもっと興味が持てました。
- 他校の生徒の意見も聴くことができ、とても興味の湧く授業だった。
- 地域通貨にはまだまだ問題点があるけど、特定の場所でしか使えないため、地域活性化させるためにとっても役立つ良いものだという事がわかりました。また、物の値段が高くなっていくとお金の循環は全体的に減っていくと思っていたけど、これから高くなっていくだろうと先を見越し、支出する人が増えるといった点がとてもおもしろいと思いました。私はまだ具体的な将来の夢がないですが、楽しいと思えるものを見つけて、さらに学びを深めていきたいと思えた講座でした。貴重なお話をありがとうございました。

大学とはどんなところ？

私の体験です。会社に入って10年以上経った時、働きなが大学院に通っていました。指導の先生との会話の一コマ。

「先生、勉強って楽しいんですね(学生時代はあまり...)」
「河野くん、学問することが楽しい、のではなくて、
楽しいことをするのが学問なんだよ」

大学とは「
」に自分で好きな言葉を入れられる場所が大学、と私は考えています。

※今回の記事(講義概要)は、大分商業高校が担当しました。